

## 緊急 教科書国定化の動き —日本と韓国の場合を中心にして—

善元

### はじめに 教科書問題を共有する

戦後70年が経過した。私たちは過去の歴史から学び、今こそその内実が問われている。キーワードは東アジアの平和と持続的な社会である。その重要な根幹が教育である。

教育観を国家が押し付ける時代から、多様な教育が求められる激動の時代。東アジアの教科書は大きく変わった。「韓国・中国の教科書は国定で、日本は検定制度」というのは10年前の話。韓国は民主化政権で検定制度が部分的に実現したが、今まさに歴史教科書の国定化する反動の動きが急だ。一方、社会主義・中国の教育改革は劇的である。1980年代後半、開放経済で教育も変わった。検定制度が施行され、現在に至るまで、多様な教科書が作成された。今回急速に進展している韓国と日本に焦点を当ててみたい。

### 1 今、日本で何が起きているか 「教科書の検定基準見直し～採択で何が」

教科書採択の年がやってきた。4年に一度の教科書検定、今年は昨年の小学校に続いて、中学校の使用教科書採択だ。しかし今年とは異なる、今年1月17日、新たな教科書検定基準ができ検定がまるで変わった。

今回の基準見直しで、「『政府の統一見解や確定した判例がある場合』、『近現代の歴史的な事柄、学術的な定説がない場合』は教科書に明記とした。審査要項では「愛国心など教育基本法の目標に照らし欠陥が判断された場合、不合格とする」とした。実際は何が起こったのか、教科・社会科を中心に考えてみたい。

### 2 政府主導の教科書検定と採択の経緯

#### (1) 教科書検定基準改訂の特徴

今回の小中学校の社会科、高校の地理歴史と公民の検定基準が新たに

### 目次

緊急 教科書国定化の動き	1
5. 18を忘れないということは	4
「主権者教育」と「18歳選挙制」についての一考察	6
皮工芸ワークショップ	10
短信	10

「(1)未確定な時事的事象について特定の事柄を強調しすぎない。

(2)近現代史で通説的な見解がない場合はそのことを明示し、児童生徒が誤解しないようにする。

(3)政府の統一的な見解や最高裁の判例がある場合、それらに基づいた記述とする。

(検定基準見直し2014・1・17)」

を加えた。では近現代史に政府見解の明記を強要する暴挙はどのような経緯だったのか。

## (2) 教科書検定基準改訂の経緯

### ① はじめに見直しありき 2013年春

話しは2年前の2013年にさかのぼる。自民党の教育再生実行本部「教科書検定の在り方特別部会」(萩生田光一総裁特別補佐2013・4・24)は「近隣諸国条項」の見直しである。改正教育基本法には『他国に敬意を払う』という趣旨の記述があり、本条項はその役割を終えた」と見直しを決めた。

### ② つぎに教科書会社に圧力・聴取、そして検定見直しへ

見直しの外堀は埋められていく。特別部会は5月28日、教科書出版会社の社長らから直接、編集方針などを聴いた。教科書の記述内容をめぐり、南京事件や慰安婦問題などの質疑が続いた。自民党は「出版社に圧力をかける考えはない」と説明。同部会は5月末に東京書籍など教科書会社3社の社長ら呼び編集方針や歴史記述について意見聴取。そのやり取りはいまだに不明。教科書記述で中国や韓国などアジア諸国に配慮を求める「近隣諸国条項」の見直しは始まっている。

## \*日本の国定教科書の歴史

日本の小学校では1903年に始まり04年から使用。以後4回全面的な修正。1943年から師範学校、中等学校でも使用したが、第2次世界大戦後の教育改革で、小・中・高等学校は検定教科書を使用。

## 3 隣国 韓国の場合

韓国の教科書問題は1974年、当時の朴正熙政権の独裁政権のため教科書は国定化された。しかし1997年、教科書は第7次「教育課程」(韓国の学習指導要領)で、教科書の検定制度が一部復活。2007年、韓国は歴史教科書の国定制度廃止を決めた。民主化政権は、歴史学会や国民から批判を受けて、検定にしたのだ。その後、教科書会社が作成し、学校ごとの選択の仕組みになった。韓国の教員の友人によれば教科書採択は小・中・高の教科書は学校別採択で、小学校の場合、主要教科は国定だが、音楽、美術、英語、体育、実科などの芸・体育能教科は、検定制度に変わった。

最終的に校長が決定選択・使用するが、学校で不採択だと利益がないので大半の巨大出版社を中心に教科書を作成している。学校ごとの差はないが、大半は教科書審議委員会でパスした教科書を採択する。しかし学校長の独断で教科書を採択し物議をかもしたりする場合もある。中・高等の場合は全教科が検・認定で、学校ごとだが、採択方式は小学校と同じで、教科書審議会→学校委員会→校長の決裁である。

### 歴史教科書の歴史教科書国定化の危機について

李明博・朴槿恵政権は韓国の近現代史に敏感である。韓国の民主化に寄与した金大中・盧武鉉元大統領政府が評価した事件(例、済州4.3事件、光州5.18など)に対し、歴史教科書を国家が統制した。

歴史教科書国定化の危機は今年の1月9日に起きた。黄祐呂副首相兼教育部長官が授業時間に韓国史を一つで教えると発言したことから始まる。副首相は、討論会で歴史教育の質問を受け「歴

史を3種類、4種類、5種類と教える事はできない」と述べ「正しい歴史をバランスよく教えるのは国家の責任。韓国の学校で紛争の種を植え、分かれないうすべき」と説明した。全ての学校に等しく教えるには国定教科書がなければ不可能とした。

\*教育部は2012年から「文・理科の統合型の教育課程」を導入し、韓国史の教科書の国定化の有無を検討。教科書検定関係者は「現在、歴史教育課程が開発中で、今年の下半期前に国定化の有無が決定」とした。新しい教育課程の歴史教科書は2018年から活用される。

その後教師たちは決議文を発した

「われわれは、名分なき韓国史教科書の国定化の試みに断固として反対する。

・われわれは、国定教科書に反対する全ての人々と共に、大々的な国定教科書反対運動に取り組む。

・現場の教師の反対にもかかわらず韓国史教科書の国定化を推進するならば、われわれは国定教科書の廃棄運動を展開するとともに、代案的な歴史教育を実践するために知恵を集めるだろう。

・われわれは、暗記して試験を受けるための歴史授業ではない、自ら考え判断する歴史授業となるよう、引き続き努力するものである。

2014. 10. 2【韓国史教科書の国定転換に反対する歴史教師】780校 1034名】

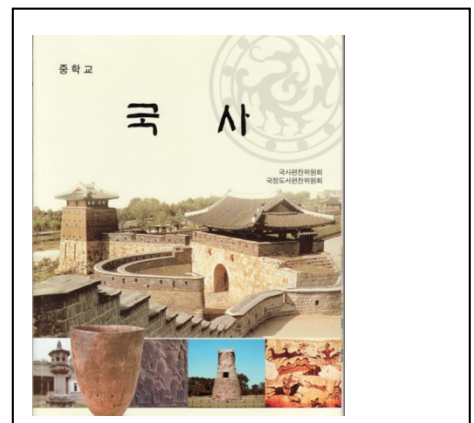
2015年秋 韓国政府歴史教科書の国定化を発表

朴槿恵大統領は10月、中学・高校の歴史教科書を、日本同様の複数の教科書会社による検定制から、国定制に戻すことを発表。これに対し、意見が分かれる日韓併合や南北分裂に対する評価を国が定めることが、「民主主義に逆行する」との批判が、教育現場などから噴出した。韓国政府が歴史教科書の国定制実施を発表したのは10月12日。2017年度から、新しい単一の教科書を使用する計画だ。これに対し、いわゆる革新派の市民や有識者が、強く反発。高校生のグループなどによる反対運動が各地で起きており、11月14日のデモでその怒りが他の問題と融合して「国民の怒り」として爆発した形だ。

韓国内で対立する歴史観は、大きく次の3点だ。

- ① 1910～1945年の日本の植民地支配を、日本による抑圧と収奪と否定的にみるか、朝鮮半島の近代化に一定の貢献があったとみるか。
- ② 1945年の解放以降、韓国で起きた反政府暴動を、民衆運動と肯定的にみるか、北朝鮮の指示を受けた左翼テロと否定的にみるか。
- ③ 1960～70年代の朴正熙政権を、民主主義を弾圧した独裁者と否定的にみるか、経済発展の立役者と肯定的にみるか。

\*現在は政府の検定に合格した教科書8冊から各学校が選択できる。国定の歴史教科書のみを使う制度は現在、先進国ではほとんど見られない。



## 5.18 を忘れないということは

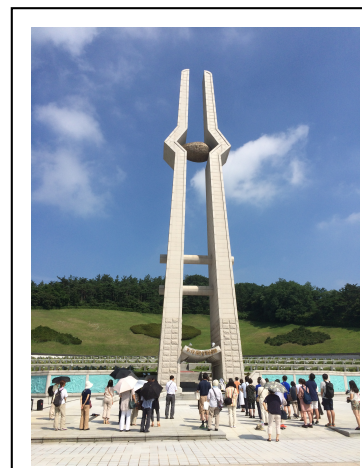
ヒヨンス

5.18 の崇高なる精神 ... 民主主義 ... あらゆる言葉を浮かべながら感想文を書こうと思ったが、やはり初日の、チョ先生がお聞きになられた ‘ヒヨンス学生の 5.18 に対する考え’ に対する返事を明確にしなくてはならないという気がした。したがってチョ先生に申し上げる返事を感想文の形式を借りて書きたいと思う。一つ確かにしておきたいことは私が今この文を書いている瞬間にも先生がこの感想文をどのようにお受けになるかを心より心配しているという事実である。(実を言うと、初日夜の反省会で私は私に注目された先生方の ‘目’ に圧倒されて ‘先生方は私をイルベ(韓国の ‘ユーモアサイト’ のひとつで、主に右派、つまり 5・18 を暴動だと主張し、野党を嫌うユーザーが多い)の会員と思っているのか’ と考えてしまい、慌てるあまり ‘小学生レベルの、論理が欠けた’ 返答をしてしまった。今回も最大限 ‘論理的な自分の考え’ を書こうと努力したがお気に召さないかも知らない。確かなことは私がイルベ会員ではないという事実である。どうか、誤解する事なく下の感想文を読んでもくださったら幸いである。

最終日、感想を発表する際に私は ‘今度光州訪問を通じて経験を通じた共感の大切さに気づいた’ と言った。しかしソウルに帰りながら終始 ‘経験を通じる共感’ というのがそもそも可能なことかという疑問は相変わらず残っていた。

80 年 5 月を経験した人々と 98 年に生まれた私が ‘光州’ を受け入れる ‘痛み’ の程度には当然差がある。夏休みに光州にいた短い間、望月洞に献花して参拝した単純な ‘経験’ で光州の痛みを ‘共感’ したと言ったのではなかったのか、心のなかの葛藤が続くばかりだった。結局私は 3 泊 4 日間の交流会のあいだずっとこのような間隙を乗り越え ‘光州’ 精神が続くためにはどうすれば良いか、に対する結論を下すことができなかった。いや、もしかしたら既下した結論に自信を持つことができなかったのかも知れない。

5.18 は全斗換 (チョン・ドゥファン) の ‘過ち’ の一つだ、





と思う学生たちが少なくないと思う。問題は、5.18 が私たちの学生たちに伝えようとする教訓が単純に‘全斗換は悪いやつ’にとどまってもいいのかということである。私たち学生は‘全斗換’という個人に対して怒るがために、5.18 が伝えようとする教訓と崇高な光州精神に気を配ることができていないのでは、という危機感が今度の光州訪問で始終私を襲った。

光州市民の評価を受けるのは‘全斗換’という個人に対して抵抗したからではなく‘国家暴力’に抵抗したからで、‘全斗換’が指弾を受ける理由は‘光州市民’を弾圧したからではなく‘国民’を弾圧したからであるだろう。ただし、5.18 の歴史を‘全羅道に対する差別’と‘全斗換’という人に対する評価を先に接してから後に学ぶのであれば‘5.18 精神’は1980年当時にとどまるのでは、という気がした。結果的に未来世代は5.18 を‘昔のこと’と決めつけるのではないか、それでこれから私たち学生が歴史から‘反省’しなければならぬところがますます色焼けにされるのではないか。

一部の人々は‘全斗換という個人が息巻いて相変らず豪華な生活を送っている’という事実を怒りをみせる。その気持ちをわからないまでもないが、そのような‘怒り’が、‘国家権力’によって行われた‘暴力’という5.18 の性格を全部‘全斗換’個人の過ちに切り替えてしまわせたら問題があると思う。忘れられる歴史は繰り返される、その通りだ。しかしいつまでも‘全斗換’と‘光州’に5.18 精神を閉じこめてしまったら結果的に私たちの学生たちは歴史を忘れてしまうことになる。

5.18 を政治的に受け入れることもその‘教訓’の継承が怒りによってできなかったことから理由を探すことができないだろうか。初日の講演で全南大教授への‘セヌリ党’（5.18以降全斗換が権力を握り創党した民主正義党がその後、民主自由党、新韓国党、ハンナラ党に名前を変えて今に至る。）に票を入れる光州市民は変な人々か（光州は野党への圧倒的な支持で有名。）という‘変な’質問は—その意味伝達が全然できなかったまま先生方の皆さんに理解されたようであるが—そのような考えからしたものなのだ。私は、「光州市民はセヌリ党が相変らず‘国家暴力’をためらわず行いそうに見えるかどうか」を尋ねたかったのである。

イルベ会員の5.18に対する侮辱もそんな視線の延長で成り立つのではないだろうか。‘国家暴力’で犠牲になった人々ではなく、ただ光州または全羅道民であるから破倫的な悪口をためらう終了後、忘年会です。(F)